

情報の公表

学生・学資出資者・入学をご検討されている方をはじめとする皆様に、本学の財務状況をご理解いただく一助となるよう、順次解説を加えてまいります。

高野山大学

学校法人会計と企業会計の違い

学校法人会計と企業会計では、その目的の違いにより、計算書や計算構造に差異が生じている。企業の損益計算書は、経営成績を明らかにすることを目的としているのに対し、学校法人の消費収支計算書は、消費収支の均衡状態を明らかにすることを目的としている。また、その計算構造は、帰属収入から基本金組入額を控除した上で消費支出と対応させている。その目的は、当初の取得財源を確保し、継続的消費収支の均衡状態を維持するため、消費支出に充当しないようにしている。また、企業会計は、経常損益計算と特別損益計算を区別することとしているが、学校法人会計にはこのような区分表示がない。

上記のことを踏まえて、本ホームページに公開している計算書類をご覧ください。

財務諸表と称する場合に、

企業会計では、「貸借対照表」「損益計算書」「キャッシュフロー計算書」を代表とし、学校法人会計では、「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」を代表としています。いくら利益をあげているかを判断する場合には、純利益などを明らかにする仕組みを持つ企業会計が明瞭です。一方、教育・研究の価値をはかる尺度はなんでしょうか。学校法人会計では、「損益」に着目する以上に、現在と未来の学生達へいかなる教育を行うのか、いかにして就学環境を継続的に支えていくのか、将来社会に還元される研究活動をいかにして推奨し、充実した研究環境をいかに整えていくのかといったことに着目し、そのために、独自の仕組み（基本金組入など）を持っています。学納金や寄付金・補助金などの収入を、学校法人の主目的である教育・研究にどのように使っているのかがわかるよう、教育研究経費と管理経費という分類を用いているのもそのためです。